



本会記事

■「第52回プラズマ若手夏の学校」開催報告

第52回校長 畠山昭一(東京工業大学 総合理工学研究科)

今年度のプラズマ若手夏の学校は、2013年9月2日から4日、三浦海岸(神奈川県)にある「リゾートホテル マホロバ・マインズ三浦」にて開催しました。例年、避暑地をもとめて山奥での開催が多いのですが、今回は趣向を変えて海辺での開催となりました。東工大と日大で共催し、学部から博士課程までの学生59名、講師9名の総勢68名が参加しました。以下に報告いたします。

・実施内容

講義は基礎から応用まで幅広い分野を扱い、主な対象である修士1年生に合わせて、先生方には初学者向けの講演をお願いしました(表1)。また今年の特徴として、学術的な話題に限らず、応用研究を活かした大学発ベンチャー、プロジェクトマネジメントの重要性といった話題も盛り込みました。

学生同士の親睦を深めるために、ポスター発表やレクリエーションにも力を入れました。初日の夜には海岸でBBQ(写真1)、2日目の夜には宴会を行いました。ポスター発表では、参加者投票の結果、最優秀賞に濱田夏彦さん(九大)、優秀賞に朝比祐一さん(東工大)、郭 学瀚さん&牛木知彦さんペア(東大)の4名が選出されました。宴会にて表彰と景品の贈呈を行いました(写真2)、その後の2次会でもポスターを前に議論が行われ(写真3)、親睦だけでなく日頃の研究にも大いに刺激になったと自負しております。

・昨年以前からの変更点

今年度より学会からの補助金が削減された経緯もあり、

開催費削減のため、日程の短縮や講義テキストの電子配布などの変更を行いました。特に日程の短縮は、参加費や時間的拘束を抑えられるため、結果的に集客アップに繋がったと思います。また参加学生から、集中して聴講するにはちょうどよい期間だったとの声もありました。

・次年以降の開催にあたって

今回最も苦労したことは、参加者を募ることです。開催時期には多くの若手向けのセミナーが混在しており、棲み分け出来ていないように感じます。今後は、例えば、同じプラズマ畑の「プラズマ科学のフロンティア研究会」や、多少毛色が違う原子力学会の「核融合工学会夏期セミナー」との共催も模索できるのではないのでしょうか。実現



写真1. 海岸 BBQ での集合写真。学生59名。



写真2. ポスター発表の優秀者。左から郭さん(東大)、朝比さん(東工大)、濱田さん(九大)、牛木さん(東大)。大漁旗を背に景品の舟盛りを囲む。



写真3. 2次会の風景。ポスター前で議論は続く。

表1 講演者とタイトル一覧。(敬称略)

山崎耕造 (名大)	神秘と魔法と夢のプラズマ (入門編)
坂和洋一 (阪大レーザー研)	高出力レーザーを用いた宇宙物理実験
鎌田宏之 (CEF 社長)	プロジェクトマネージャー
井上多加志 (原子力機構)	ITER 計画：建設の進展
飛田健次 (原子力機構)	核融合原型炉を実現するために
高橋和貴 (東北大)	磁気ノズルヘリコンプラズマスラスターの開発
沖野晃俊 (東工大)	大気圧プラズマの応用研究とプラズマベンチャーの起業
秋山毅志 (核融合研)	プラズマの電磁波計測の基礎と最近の動向
井 通暁 (東大)	高ベータプラズマの平衡と自己組織化

すれば、個別のセッションも設けながら、より多くの学生が分野の垣根を越えて交流できるでしょう。プラズマ・核融合分野の活性化のためにも、夏の学校を運営する学生側だけでなく、学会や先生方のお知恵も拝借して議論していく必要があります。

最後に、お忙しい中ご足労いただいた講師の方々、参加者やスタッフの皆様の協力により、無事成功に終わるこ

とができました。この場を借りてお礼申し上げます。イレギュラーな拝命ではありましたが、歴史ある夏の学校の校長を務める機会に恵まれたことに、深く感謝しております。ありがとうございました。

次回第53回若手夏の学校は2014年夏、名古屋大学の主催で行われる予定です。

こちら編集委員会です

【お詫びと訂正】

日頃プラズマ・核融合学会誌をご愛読いただきありがとうございます。学会誌の表紙には、Plasma and Fusion Research (PFR) に最近掲載された論文から、編集委員による投票で選ばれた図を掲載しています。

先月号（10月号）の表紙ですが、印刷編集段階での手違いで表紙の絵を取り違えてしまいました。本来掲載すべき図は、[Masafumi ITAGAKI *et al.*, Plasma and Fusion Research Vol. 8, 1402134 (2013)] の Fig. 9 でした。表紙に掲載されたものは同 Fig. 4 です。ここに訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

当該論文は下記 URL からご覧いただけます。

http://www.jspf.or.jp/PFR/PFR_articles/pfr2013/pfr2013_08-1402134.html

次回12月号は12月25日発行の予定です。ご期待ください。

【12月号予告】

解説 分子軌道法を用いたプロセスプラズマへのアプローチ

小特集 俯瞰と展望：磁気リコネクション研究の最前線（後編）